

Tahara

田原市ホームページ <http://www.city.tahara.aichi.jp>

2009
平成21年

11.15

	目次
広報サポーターだより 中国人研修生も家族の一員!	2
福江校区	4
学校は今… 環境教育の取り組み	5
たはらシティニュース	6
田原市民活動支援センターのページ	7
お知らせ	8
連載コーナー	10

咲き誇る
大輪の菊!



市民発!

広報サポーターだより

中国人研修生も家族の一員!

皆さんこんにちは。広報サポーターの朝倉です。中国からの農業研修制度が始まって13年。現在、市内では約470名の研修生・技能実習生たちが、キャベツや菊、畜産などの各分野で活躍しています。

今回は、農業技術の習得だけでなく、日本語や日本の文化などを学び、地域の方々と触れ合いながら頑張る姿を、研修生たちの生の声でご紹介します。



広報サポーター
朝倉登喜子



2009.1.1

お正月…呉小麗さん(写真:右から2人目)

「日本では、お正月を新暦でお祝いしました。みんなでいろいろな味の餃子や中国料理をたくさん作りました。餃子作りは楽しくて、時間がたつのを忘れてしまいました。みんなそろって温かい料理を囲み、お正月を祝うのは、和やかで楽しい生活です」



2009.7.4

七夕祭…胡慧さん(写真:中段右端)

「日本の七夕祭は中国とは違いますが、願いごとを祈るのは同じです。仕事が終わってから、`家庭のみんなお元気で、`仕事も上手いきますように、などと願いごとを書いた短冊を、一枚一枚心を込めてササにつるしました。皆さんも、七夕の日は家族の健康や仕事のことなど、思い切りお祈りしませんか」



2009.7.14

花火会…趙紅蓮さん(写真:右)

「夕方、子どもたちが、ちょうちんを竿に掛け、バケツやろうそく、いろいろな花火などをそろえました。さあ花火会の始まりです。花火がはじけた瞬間に、私たちが子どものころのように無邪気になりました。楽しい気分のまま、子どもたちと仲良く写真撮影。日本の子どもたちと一緒に花火会ができて、うれしかったです」



2009.8.2

▶ **バーベキュー**…^{トウセン}鄧尖尖さん(写真:右)

「今日は年に一度のバーベキュー。スピーカーやマイクなどはなかったけれど、みんなでトングを持って歌いながらダンスをしました。野菜や肉、ウインナーなどを焼きながら、たくさん食べました。みんなで一緒に食べて、遊んで、幸せな時間。まるで自分の家族のように感じました」

▶ **日本語能力試験1級合格**…^{テイケン}丁燕燕さん(写真:左)

「この日は、私にとって忘れられない日になりました。日本語能力試験1級の合格通知が届いたのです。跳び上がるほどうれしかったです。まだ何を話しているか分からない時、言葉使いがおかしい時、まわりの皆さんが親切に教えてくれたことを思い出しました。日本の文化や習慣も体験でき、日本に来て本当に良かったと思います。これからも頑張ります」



2009.9.2



2009.9.22

▶ **菊の出荷**…^{コウセン}黄雪斌さん(写真:右)、^{キクン}魏君さん(写真:左)

「日本に来て1年半になります。初めは言葉や習慣などの違いから、失敗ばかりでしたが、雇い主さんがいつも丁寧に教えてくれました。仕事以外でも相談にのってくださいます。パートさんたちも親切で、出荷する日は、みんなで協力しています。自分たちが手をかけた菊の出荷は楽しいです。研修が終わり中国へ帰っても、また日本に来たいと思っています」



研修生たちによる運動会も開催されています。全力で競技に取り組み、研修生同士の交流も深めているようです。



● **おわりに**

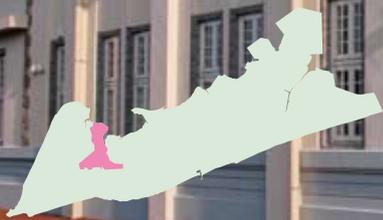
生活や文化の違い、言葉の壁などを越えて、地域にとけ込むと努力している若い研修生たち。日本の習慣や生活のきまりが分からずに、地域の方に迷惑をかける場合があると聞くことがあります。仕事だけでなく、ぜひ自転車の乗り方など、生活の中で必要なきまりも教えてあげて欲しいと思います。

そして、頑張っている研修生たちには、「おはよう」「頑張ってるね」など、明るく声を掛けてあげたいものです。

福江

基礎データ

- 【人口】4,449人(H21.9.30現在)
- 【世帯】1,357世帯(H21.9.30現在)
- 【面積】約730ha
- 【公共施設】福江保育園・福江小学校・あつみライフランド(渥美福祉センター)
- 【史跡】保美貝塚・杜国公園・烏丸大納言の墓
- 【主な産業】商業・農業・漁業



●福江市民館

校区の特色

旧渥美町の中心地域であった福江校区は、金融機関や商店、飲食店などが多く立ち並ぶ福江地区、それを取り巻くように位置する農漁業が盛んな長沢・保美・向山地区からなります。

歴史と産業

保美・福江地区には貝塚があり、古くから人々が住んでいたことが分かっています。特に、保美貝塚は渥美半島三大縄文貝塚の1つで、現在、発掘調査が行われています。

江戸時代には、向山に新田が開発され、畠村(福江地区の旧称)からの分村につながりました。

明治になると、福江出身の挿絵画家・宮川春汀と交流のあった多くの文人がこの地を訪れました。柳田国男の来訪が、詩歌『椰子の実』誕生につながったことはあまりにも有名ですし、田山花袋の『一兵卒』には“福江村”が登場しています。

戦時中は、マオランを原料とした軍用ロープの製造が、戦後は、冬の強風を利用した沢庵の製造が盛んでした。

現在では農産物も多様化し、施設園芸が盛んになりました。これには豊川用水の通水が大きな役割を果たしていますが、長沢地区に

ある「中明池」のように、特定の地区に農業用水を供給する“ため池”の存在も忘れてはなりません。



●中明池

また、かつて盛んだった海苔の養殖を、福江小学校の5年生が総合学習の時間で体験しています。



●海苔の養殖体験

まちづくり

地域住民を中心とする「福江地区まちづくり会議」により、『まちづくりビジョン』を作成しました。市民・団体・行政が一体となって、歩道橋への菜の花写真のラッピングや、すずらんの花をかたどった街路灯の設置、松尾芭蕉の弟子・杜国の屋敷跡の整備、また免々田川

●福江歩道橋の菜の花ラッピング



●杜国屋敷跡



沿いへのカワヅザクラや菜の花の植栽などを行っています。

まつり

毎年10月には、各地区でお祭りが行われます。福江地区では、5台の山車を繰り出します。担い手不足という課題もありますが、子どものお囃子隊や女性の踊り隊などの参加で新たなにぎわいも生まれてきました。

また、長らく途絶えていた盆踊りを地元有志が復活させ、校区夏まつりとして受け継ぎ、毎年多くの人たちが参加しています。

新・市民館

今年8月、待望の新しい福江市民館が完成しました。旧渥美町役場庁舎だった建物の一部を残し、外観も創建当時の様相を模したのになっています。多目的ホールも完成し、10月25日(日)には新市民館で初めての市民館まつりを行いました。子どもからお年寄りまで、校区民が気軽に立ち寄れる場所になることを願っています。



学校は、今…

SCHOOL REPORT 16

自然とふれ合う
環境教育の取り組み

各学校では、さまざまな教科や総合的な学習の時間、学校行事などで、学校の周辺や校区の自然を生かした活動に取り組んでいます。今回は、環境教育の取り組みをご紹介します。

●学校教育課 ☎ 23局 3679



かんべ こ 神戸っ子の森(神戸小学校)

神戸小学校の東に隣接する雑木林は、ずっと昔から子どもたちに親しまれ、「神戸っ子の森」と呼ばれています。鬼ごっこや基地作りを楽しむ遊びの場だけでなく、リコーダーや本読みを練習する学習の場としても親しまれてきました。

近年、害虫や台風による倒木や雑木の繁茂が目立つようになってきましたが、平成18年度から毎年PTAの皆さんによる整備作業が行われ、神戸っ子の森が再生しました。今では、森の広場に続く丸木の階段やターザンロープ、ブランコなどが新しく設置され、子どもたちの楽しげな声が響いています。子どもたちに、この森の自慢を尋ねると、「トカゲやカタツムリがいっぱいいる」「探検ができる!」など、笑顔いっぱいでお返してくれました。

神戸っ子の森は、自然と触れ合い、環境について学べる大切な場所となっているようです。



▲森で探検する子どもたち

◀新入生に森を案内する5年生



▲ロッククライミングに挑戦



▲芦ヶ池とサンテパルクを眺望

伝統の登山集会(野田小学校)

野田小学校で、毎年11月に行う登山集会は、今年で37回目を迎える伝統行事です。

当日は、全校児童が、学年男女混合の10名程度の縦割りグループで学校を出発し、平沢池を經由して標高178mの小トギス山を目指します。そして、サンテパルクへ至る約4kmのコースを、1時間半かけて歩きます。

参加した子どもたちからは、「疲れて足が動かなくなったとき、見上げると空がよく見えました」「頂上から見たサンテパルクはとても小さかったです」「ロッククライミングもできて、楽しい登山集会でした」などの感想が寄せられました。

みんなで助け合いながら登山し、心身を鍛えるだけでなく連帯感も強めている子どもたち。山頂から野田校区を見渡し、自分たちの郷土にさらに愛着を持って欲しいと願っています。

10月25日 日

「絆」が深まった
私たちのまつり

第7回田原市民まつりが田原文化会館周辺で開催され、家族連れなど約4万5000人でにぎわいました。市民パレードやステージイベントのほか、夕方からは、はなとき通りで踊りコンテストなどが催され、沿道に集まった観衆を大いに盛り上げました。



▲10チームが色鮮やかな衣装で登場した「じゃん田原りん踊りコンテスト」

10月31日 土

感性を高める
力作ぞろい！

10月30日(金)～11月1日(日)・3日(火・祝)、田原市文化祭が田原文化会館や渥美文化会館などで開催され、文化活動の日ごろの成果が披露展示されました。また、児童生徒文化体験教室の小・中学生が出展した作品も、訪れた人々の注目を集めていました。



▲田原文化会館多目的ホールでは、書道展などが展開されました

10月21日 水

心技体の充実で
つかんだ栄光

10月3日(土)・4(日)に東京体育館で行われた第41回全日本空手道選手権大会(新極真会)の無差別級女子の部に、光部和子さん(田原町)が出場。直接打撃を当てるルールの同大会で、身長156cmと選手としては小柄ながら、準優勝し、市役所へ結果報告に訪れました。



▲市長から「市民の活躍は、子どもたちの目標になる」と祝福された光部さん(右)



田原市民活動支援センターのページ

共生のまち 田原市を考える会 フォーラム

12/5
(土)

日時/12月5日(土) 10:00~16:30

会場/田原文化会館 多目的ホール

定員/150名 参加料/1,000円

主催/「共生のまち」田原市を考える会

<市民協働まちづくり補助金助成事業>

「共生のまち」田原市を考える会は、“障がいのある方もない方も、同じ田原市民として共生するまちを築いていこう”という想いのもと、田原市障害者自立支援協議会の事務局メンバーが立ち上げた会です。今回のフォーラムでは、障がいのある方々が抱える“生きづらさ”などの問題について、“気づき”をテーマに、みなさんと一緒に考えます。

申込み・問合せ 「共生のまち」田原市を考える会

代表 伊藤 (田原市社会福祉協議会内)

Tel (0531)23-3810 Fax (0531)23-3970

基調講演 10:15~11:45

講演テーマ
「みんなが
暮らしやすいまち」

NHK名古屋放送局 アナウンサー

内多 勝康氏



シンポジウム 13:00~14:30

テーマ「『共生のまち』を考える」

シンポジスト 鈴木 克幸氏 (田原市長)

有村 秀一氏 (トヨタグループス(株) 常務取締役)

真野 尚功氏 (田原青年会議所 理事長)

鎌田 博幸氏 (田原授産所 施設長)

アドバイザー 内多 勝康氏

コーディネーター 新井 在慶氏 (田原市障害者相談支援機能強化員)

分科会 14:45~15:45 *3会場に分かれて意見交換

- ① 「働く」～共に働く～
- ② 「暮らす」～地域のなかで生きる～
- ③ 「知る」～まちづくりに必要なもの～

分科会発表・総括 16:00~16:30

助成金・補助金情報

市民活動を行うために、さまざまな補助や助成があります。ここではタイムリーな助成金情報を掲載。

助成事業名	内容や対象など	申請期日	申込み・問合せ
障害者市民防災活動助成	障害者市民防災・減災活動	常時募集中 (活動実施3ヵ月 以前に申請)	特定非営利活動法人ゆめ基金 Tel (06)6324-7702 http://homepage3.nifty.com/yumekaze/
セブン・イレブンみどりの基金	自然環境・野生動植物種の 保護・保全活動	11/30(月)	セブン&アイHLDGS. http://www.7midori.org

今後の市民活動ニュース

日時	内容	会場ほか	連絡先
12/5(土) 19:00~21:00	第3回 コーディネーター養成講座 =コーディネートの実践(仮)=	講師/神谷 典江氏(とよかわボランティア 市民活動センター・コーディネーター) 田原文化会館 201会議室 参加費:無料	田原市民活動支援センター 連絡先/市役所・市民協働課 Tel (0531)23-3504
12/10(木) 13:00~15:30	映画「破片のきらめき」 上映会と監督による講演会	田原文化会館 多目的ホール 参加費:無料	NPO法人おおぞら Tel (0531)22-7341
12/13(日)・ 19(土)・20(日) 10:00~15:00	田んぼの学校 ～もちつき&正月飾りをつくろう!～	どろんこ広場 定員:30名の2クラス制 参加費:各回 900円	NPO法人はつくるベリーじゃむ Tel (0531)34-1234 e-mail info@huklejam.com

通年

市民活動支援センターでは、NPO・市民活動相談などを受け付けています(毎週金・土・日午後2~7時、田原文化会館フリースペース)。同時にこの広報ページへの持ち込み原稿も大歓迎です! *紙面の都合上、内容を編集させていただく場合がありますのでご了承ください。

投稿先: 市役所市民協働課 TEL: 0531-23-3504 FAX: 0531-23-0180 Email: kyoudou@city.tahara.aichi.jp
紙面作成・編集: 田原市民活動支援センター



		おしらせ		
		INFORMATION		

募集

WANTED

田原市博物館企画展監視員

田原市博物館で平成22年1月5日(火)から2月14日(日)まで開催する企画展の展示室監視員を募集します。



▼募集人員 8名 ▼対象 おおむね60歳までの健康な方 ▼勤務時間 午前9時～午後1時または午後1時～5時(交替勤務) ▼勤務内容 展示室監視 ▼賃金 時給810円 ▼選考方法 面接(期日など詳

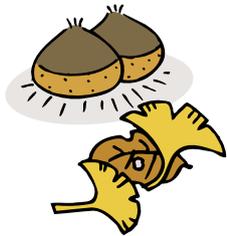
細は後日通知) ▼申し込み 12月1日(火)までに田原市博物館にある履歴書に必要事項を記入のうえ開館時間内に提出(郵送不可)
▼田原市博物館 ☎22局1720

図書館講座

「データベース講座 ちよと中級編」

「データベース」とは、パソコンで関連し合うデータを収集・整理して、検索や更新を効率化したファイルのことをいいます。今回は、ちよと中級編！実際にデータベースを使い、演習問題を解いてみます。

▼対象 なたでも ▼日時 12月19日(土) 午前10時～正午 ▼場所 情報センター メディア研修室(田原文化会館2階) ▼定員 12名(先着順) ▼参加料 無料 ▼申し込み 11月25日(水)から直接または電話にて
▼田原市中央図書館 ☎23局4946 FAX 23局4646



家族介護者交流会を開催します

日ごろ、ご家庭で介護に携わっている方々の交流会を開催します。介護に対する苦勞や不安などについて思い切り語り合える場ですので、ぜひご参加ください。



▼日時 11月30日(月) 午前10時～午後1時(昼食あり) ▼場所 渥美福寿園 ▼定員 30名(先着順) ▼参加費 無料 ▼申し込み 11月29日(日)までに電話にて
▼渥美福寿園 ☎34局6688

第6回危険物取扱者試験

▼対象 一般 ▼試験日 平成22年1月31日(日) ▼場所 名古屋市内 ▼種類 甲種・乙種第4類・丙種 ▼申し込み 12月14日(月)から12月24日(木)までに消防課または消防署・各分署にある受験願書に必要事項を記入のうえ提出 ※詳しくはお問い合わせください
▼消防課 ☎23局4074 FAX 23局0180

「うつ病家族教室」

うつ病患者の家族が、うつ病についての理解を深め、支援方法などについて学びます。

▼対象 1うつ病で治療中の方の家族 ▼日時 12月15日(火) 午後1時30分～3時30分 ▼場所 豊川保健所 蒲郡保健分室 ▼内容 講話 「うつ病の治療と家族の接し方」 講師 京ヶ峰岡田病院 精神科医師 / 意見交換 ▼参加料 無料 ▼申し込み 12月10日(木)までに電話にて
▼豊川保健所健康支援課 こころの健康推進グループ ☎(0533)86局3626

子育て応援特別手当(平成21年度版)の執行停止について

国の追加経済対策により実施予定となっていました「子育て応援特別手当(平成21年度版)」につきましては、国の補正予算の見直しにより執行停止となりました。詳しくは厚生労働省ホームページをご覧ください。

HP <http://www.mhlw.go.jp/>
▶子育て支援課 ☎23局3513 FAX 23局3545



LIFE

生活

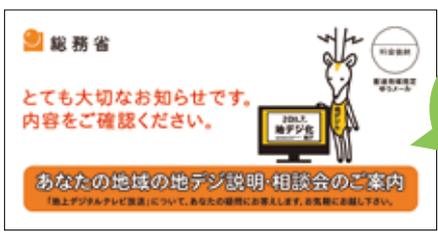
地上デジタル放送

無料説明会・相談会

総務省による「地デジ説明会・相談会（無料）」をお近くの市民館などで開催します。開催日時と場所は、各ご家庭に届く総務省からの案内をご確認ください。

説明会や相談コーナーでは、

地上デジタルテレビ放送について、映像の美しさや便利さを実際に体験でき、疑問や相談にもお答えします。お気軽にお越しください。



目印はこの封筒！

【説明会】
▼日時 12月中（詳細は案内に掲載）
▼場所 各市民館（詳細は案内に掲載）
▼所要時間 説明会は約1時間（個別相談にも応じます）
▼費用 無料

【相談コーナー】

▼日時 12月11日（金）～13日（日）
午前10時～午後4時 ▼場所 田原文化会館アトリウム ▼費用 無料
※お問い合わせは、平日（月～金曜日）の午前10時から午後6時までにお願います。

▼総務省 愛知県テレビ受信者支援センター（デジサポ愛知）
☎（052）955局5811

年末の交通安全県民運動

12月1日（火）～10日（木）

年末年始を迎えるこの時期は、最も交通事故が多発する時期です。飲酒運転は絶対にやめ、思いやりある運転で交通事故をなくしましょう。また、愛知県は4年連続で交通事故死者数全国ワースト1位です。今年こそワースト1位を返上しましょう。

●重点目標

- 飲酒運転を根絶しよう
- 高齢者を交通事故から守ろう
- 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故をなくそう
- 後部座席を含むシートベルトとチャイルドシートを正しく着用しよう

▼市民協働課
☎ 23局3504 FAX 23局0180

年末の安全なまちづくり県民運動

12月1日（火）～20日（日）

地域の皆さんと防犯協会や警察が協力し合い、身の回りに危険を及ぼす犯罪を未然に防ぐ活動を行います。地域ぐるみで防犯活動に取り組み、安心して暮らせるまちを目指しましょう。

●重点項目

- 子どもを対象とした事件・事故の防止
- ひったくりなど街頭で発生する犯罪の防止
- 住宅・店舗などを対象とする侵入犯罪の防止
- 暴力追放運動の推進
- 振り込め詐欺の被害防止

▼市民協働課
☎ 23局3504 FAX 23局0180

人権週間

12月4日（金）～10日（木）

人権は、私たち一人ひとりの生命や自由・平等を保障し、日常生活を支えている大切な権利です。

日常生活を振り返って、「他人の権利を侵していることはないだろうか」「自分の人権が侵されていないだろうか」など、身近なことから人権を考えてみましょう。

日ごろの生活の中で「人権問題ではないだろうか」と感じた方や「法律上どのようなようになるのか」など困りの方は、お近くの人権擁護委員または法務局にご相談ください。

▼名古屋法務局豊橋支局
☎（0532）54局9278
FAX（0532）54局9280

▼福祉課
☎ 23局3512 FAX 23局3545

DONATION

寄付



次の方からご寄付をいただきました。ご厚意に感謝します。

▼10月1日、三河ミクロン（株）代表取締役 彦坂直政様から、田原市立小中学校および保育園の花いっぱい運動の推進・環境教育の向上のため、草花用培土バラ33立方メートル、袋840袋。

ふるさと寄附金

▼10月9日、匿名希望の方から金100万円。

広がる未来へ

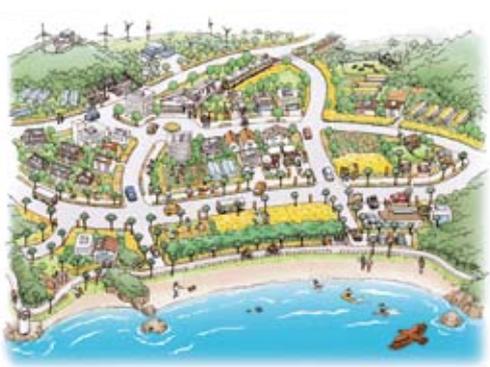
43

＊たはらエコ・ガーデンシティ構想

●美しい渥美半島に③

◆渥美半島菜の花浪漫街道 アクションプラン

平成20年に、環境共生を目指した「渥美半島菜の花浪漫街道基本構想」を策定し、基本理念を「花が彩る潮騒のエコ ガーデン ロード」環境共生の道づくり・郷づくり・人づくり」と定め、重点施策をとりまとめました。そして、基本構想で位置づけた施策を実行するため、平成21年度から25年度を具体的な行動計画の期間と定めるアクションプランを、平成21年3月に策定しました。



このアクションプランでは、ボランティア団体などが環境美化活動をするとき、道路管理者との調整、清掃道具の借用、ゴミなどの処分方法について、どこに相談をすればよいかなどの具体的な手順をわかりやすく整理しています。

道を舞台とした美しい渥美半島づくりに、市民の皆さんとともに取り組んでいきたいと思えます。

※アクションプランは、市ホームページからご覧いただけます。

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp/>

●たはらエコチャレンジ宣言登録者数
個人427人・事業所20か所(10月末現在)

▼渥美半島菜の花浪漫街道パートナーシップ会議事務局(エコエネ推進室)

TEL 23局7401 FAX 23局0180



省資源とリサイクル

19

田原市では、平成20年度中に2万5395トンのごみが出され、そのうちリサイクルされた資源ごみは、7684トンになりました。今回は、リサイクルされたごみについてお知らせします。

リサイクルされた
ものの量は?



◆紙類.....2164トン

※雑誌新聞段ボール牛乳パックなど

◆布類.....435トン

◆金属類.....768トン

※缶スチールアルミ鉄くずなど

◆ガラスびん類.....568トン

※白色茶色その他の色のものなど

◆ペットボトル.....224トン

◆プラスチック類.....210トン

※プラスチック容器類 白色トレイなど

◆発泡スチロール.....5トン

◆枝・木類.....3253トン

※枝木をチップにしています

◆蛍光管・乾電池など.....41トン

◆その他.....16トン

※東部資源化センターに搬入された自転車や家具類で、リサイクルプラザへ搬出されたものです。



もやせるごみの
量とその処理は?



◆もやせるごみ 1万7343トン

田原リサイクルセンター炭生館において、もやせるごみから743トンの炭が作られ、再利用されました。

※もやせるごみの中には、紙・布類が、43%含まれています。紙・布類は分別すれば、資源になるものが多いので、リサイクルしましょう。

ごみは分別すれば、大切な資源になります。皆さんの協力をお願いします。

清掃管理課

TEL 23局35588

FAX 23局0180



ゴミゴミとリサイクルレンジャー

交流通信

このコーナーでは、国内外合わせて7つある田原市の姉妹・友好都市などの情報をお届けします。

▶政策推進課 ☎ 2 3 局 3 5 0 7

友好都市 山のまち・長野県阿南町

阿南町は長野県下伊那郡に位置する「山のまち」で、昭和59年に旧渥美町と友好都市提携を結びました。現在では、小学生同士の交流や民間の物産展交流などを通じ、きずなを深めています。

●和地小学校と阿南町の小学校との交流

5月28日(木)、阿南町の全4小学校の5年生が和地海岸で、和地小学校の4～6年生とクイズや名刺交換などを行い、交流を深めました。

7月1日(水)～3日(金)には阿南町で、和地小学校の4・5年生が山の生活を体験。5月に和地海岸で交流した新野小学校の児童と交流会を行うなど、楽しい時間を過ごしました。



▲阿南町和知野川で元気いっぱい
◀給食を囲んでの交流(新野小)

●道の駅物産展交流

11月15日(日)、サンテパルクたはら収穫祭で、阿南町の道の駅「信州新野千石平」が名物の五平餅やりんごなどを販売し、多くの買い物客でにぎわいました。

また、道の駅「田原めつくんはうす」では、阿南町と特産品などを交換して販売しています。

皆さんも阿南町特産の「凍み豆腐」などを味わってみてはいかがでしょうかですか。



◀凍み豆腐

これからの季節、煮物などにおすすめです



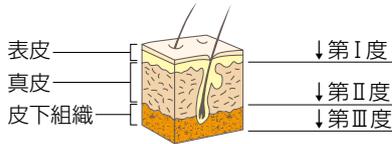
▲特徴的な形で知られる阿南町の五平餅

※阿南町の詳しい情報は、町ホームページをご覧ください。

HP <http://www.town.anan.nagano.jp/>

■やけどの程度

深達度	皮膚の外見	症状
第Ⅰ度 表皮やけど	皮膚が赤くなる	ひりひり痛む
第Ⅱ度 真皮やけど	水ぶくれができる	強く焼けるように痛む
第Ⅲ度 全層やけど	黒くこげたり、白く乾燥して見える	痛みを感じないことが多い



今回は、「やけど」です。
■程度の判断
やけどした部分の表面積が、成人では全身の20%(子どもは10%)以上の場合や、面積が小さくても第Ⅲ度に達した部分があれば、迷わず救急車を呼びましょう。

ごんには、かんちゃんです。ケガなどをしたときに役立つ応急手当について、シリーズでご紹介しています。

かんちゃんの

防災まめ知識

いざというときの応急手当 ③ やけど

54

忍びよる巨大地震

■やけどの手当て

- すぐに水道水などのきれいな冷水を使い、患部に直接水圧がかからないように、15～20分冷やします。多量の水がない場合は、清潔な布を水に浸し、患部に当てます。
- 衣服を着たままやけどをした場合は、衣服の上から水をかけ患部を冷やします。※衣服についた皮膚は無理にはがさない
- 広範囲のやけどの場合は、浴槽に水をためて衣服を着たまま体をつけます。
- 十分に冷やした後は、滅菌ガーゼや清潔な布で患部を覆います。



- ① 水ぶくれはつぶさないでください。
 - ② 病院に行く前に、自分で包帯を巻かないようにしましょう。
- ▼防災対策課 ☎ 23局 3 5 4 8

歴史探訪

クラブ

其の
104



History Inquiry Club

文化財課 ☎23局 3635

FAX 22局 3811

里に咲くヒガンバナ

9月の秋分の日を含めた連休を心待ちにしていた方も多いと思いますが、私には休みのほかにも楽しみがありました。それは、この時期にヒガンバナが咲くからです。

ヒガンバナは、中国原産の多年生植物で、彼岸の日のある毎年9月下旬から10月上旬に咲きます。花が散った10月下旬から翌年の5月にかけては、細長い葉を地面いっぱいに広がっています。そして夏の間は葉を落とします。9月下旬の開花をじっと待つのです。



▲鮮やかに咲くヒガンバナ(大久保町・10月上旬撮影)

草むらや田畑のあぜに、ひよろつと伸びた花茎に鮮やかな花が咲くその姿は、緑色の草と赤色の花とのコントラストも美しく、里に咲く季節感あふれる花の一つではないでしょうか。その一方で、ヒガンバナは好き嫌いが分かれる花です。新美南吉の『こんぎつね』にも、墓場の場面で登場するので忌み嫌う人もいます。球根の毒性を知る人はなおさらで、その毒は想像以上に強く、口にすると中毒死する危険があります。しかし、球根には豊富なデンプンが含まれて



▲冬支度の葉(大久保町・10月下旬撮影)

いるため、古代から十分に毒抜きを行い、食料として利用されてきました。「歴史探訪クラブでなぜ、花の話?」と思う方がいるかもしれません。日本のヒガンバナは、種子をつけられないため球根の増殖でしか増えません。つまり、日本全国各地に分布するヒガンバナは、人の手によって運ばれ、人々のくらしに古くから結びついていると考えられるのです。愛知大学の有蘭正一郎ありそのさんは、ヒガンバナの分布と集落が成立した時期との関連性を調べ、「水田稲作農耕文化を構成する要素の一つとして、縄文晩期に中国の長江下流域から日本に直接渡来した」という説を発表しています。渥美半島も調査され、成立期の古い集落ほどヒガンバナが多く、また

海浜部には少ないことが確認されています。しかし縄文時代の遺跡周辺には少ないの

で、渥美半島では、縄文晩期に伝わった初期の水田稲作の文化は定着せず、その後に水田稲作が定着した古い集落にヒガンバナが自生したといえるのかもしれませんが。現在の渥美半島では、大久保町、野田町、山田町などの集落で大きな自生地が見られ、ほのほのとした秋の風景に色を添えています。

農村の風景として欠かせないヒガンバナ。工事地内にヒガンバナがあると、工事終了後にその球根を元に戻すという取り組みもされているようです。古くは食料として運ばれたヒガンバナですが、今後は私たちの生活の中で、心やすらぐ植物としてお付き合いが続いていくことでしょう。(増山)

今月の「表紙」

▼サンテパルクたはらで開催された渥美半島菊花大会。この日に合わせて咲くように、手塩にかけて育てられた菊は見事の一言につきます。台風18号の被害をまぬがれて咲き競う菊を見て感じた、日ごろから準備することの大切さ。わが家でも、防災への備えをもう一度確認しようと思えました。(〇)

【表紙の写真】渥美半島菊花大会